

注:この解説文は、レッドリストあいち 2015 に基づいているため、レッドデータブックあいち 2009 とは内容が異なります。

汽水・淡水魚類 <コイ目 コイ科>
PISCES <CYPRINIFORMES CYPRINIDAE>

愛知県:絶滅危惧 IA 類 (国:絶滅危惧 IA)
AICHI: CR (JAPAN: CR)

イタセンパラ *Acheilognathus longipinnis* Regan

【選定理由】

愛知県内における生息地は極めて局所的であり、生息環境の悪化及び捕食性外来魚の侵入による絶滅の危険性がきわめて高い。

【形態】

体長 8cm。体形は著しく側扁して体高が高くなる。背鰭と臀鰭は尾鰭付近にまで達し、それぞれの分枝鰭条数は背鰭 14-16、臀鰭 13-16 と日本産のタナゴ類で最多となる。口ひげはない。体色は褐色を帯びた銀白色で、鰓ぶた後部に暗色小斑がある。産卵期を迎えると雄は紫紅色を帯び、腹部は黒くなる。腹鰭と臀鰭は黒色で縁取られ、白色の点列が複数入る。

【分布の概要】

【県内の分布】

木曽川水系、日進市（絶滅）。

【国内の分布】

淀川水系、濃尾平野、富山平野。

【世界の分布】

日本固有種。

【生息地の環境／生態的特性】

河川のワンドや溜め池など水流がほとんど無い水域や灌漑水路などに生息する。産卵期は 9 月～11 月で、小型のインガイ類に卵を産み込む。貝の中でふ化した仔魚は、そのまま貝の中に留まり、翌年の 5 月上旬～6 月上旬に二枚貝から泳ぎ出る。稚魚は岸辺の抽水植物帯の周辺で群泳し、成長に伴い、プランクトン食から藻類食に変わる。成長は非常に早く、次の産卵期までに成熟し産卵に参加する。寿命は 1～2 年である。

【現在の生息状況／減少の要因】

木曽川水系において生息が確認されているが、危機的状況が続いている。また、1997 年に発見された日進市の個体群については近年、採集報告が途絶えていることから絶滅したと思われる。主な減少の要因は生息場所となるワンドや溜め池の消失や河川改修などである。これは、産卵母貝となる二枚貝の減少要因にもつながっている。また、外来種オオクチバスやブルーギルによる食害、鑑賞を目的とした密漁も大きな懸念材料となっている（小川，2008）。

【保全上の留意点】

生息場所のモニタリング、生息環境の保全・創出は言うまでもない。他のタナゴ類と同様、インガイ類に産卵するため、繁殖の成否は二枚貝の生息および生残に大きく依存する。そのため、保全には自然環境全体での取り組みが必要で、生物多様性の理解など教育的要素を織り交ぜた啓発活動が必要である。外来魚問題および密漁対策については、これまで以上に行政および関係団体が連携して積極的な防止策を講じることが望まれる。

【特記事項】

昭和 49 年に国指定の天然記念物、平成 7 年に国内希少野生動植物種に指定されている。愛知県内では、碧南海浜水族館および東山動植物園が環境省中部地方環境事務所と連携し生息域外保全に取り組んでいる。

イタセンパラの和名は体高の高い特徴的な体型に因んだ濃尾平野の方言に由来する（小川，2008）。

【引用文献】

小川力也, 2008. イタセンパラ: 河川氾濫原の水理環境の保全と再生に向けて. シリーズ・日本の希少魚類の現状と課題. 魚類学雑誌, 55(2)144-148.

【関連文献】

北村淳一・西尾正輝, 2010. 富山県氷見市保存池におけるイタセンパラの繁殖生態と生活史. 魚類学雑誌, 57(1):35-42.

小川力也・長田芳和・紀平 肇, 2000. 淀川におけるイタセンパラの生息環境(総説). 大阪教育大学紀要, 49: 33-55.

細谷和海, 2013. コイ科. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版, pp308-334, 1927-1928. 東海大学出版会, 神奈川.

(執筆者 地村佳純)